

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1190200418		
法人名	株式会社トゥルーケア		
事業所名	グループホームひなげし		
所在地	埼玉県川口市東川口1-5-44		
自己評価作成日	平成24年12月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成25年1月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>寄り添う心と、笑顔の絶えないホーム作りをしている。                  職員の意識の向上を図る事にも力を入れている。                  利用者が重度化しても介護の力で最後まで支える努力をしている。                  家族との関係も誠実に対応することで良好になっている。                  地域とのつながりを大切に、深くなるように努力をしている。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>・家族とのコミュニケーションが大切にされており、協力してもらえ関係づくりに努められ、運営推進会議や避難訓練などを中心に協力支援体制が築かれている。また、職員と利用者間の人間関係も良く、利用者の不満や不安にも誠実に対応され、信頼関係の構築にも取り組まれている。                  ・ご家族アンケートでも、「細部にまで、いつもよく配慮いただき、母を大変元気にしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです」、「職員の方々が気さくな感じで、雰囲気がいい」などのコメントが寄せられ、高い評価が得られている。                  ・目標達成計画の達成状況については、利用者の食事の情報を家族に伝えることに取り組み、献立表の送付や試食会を行い、意見や感想が寄せられ、信頼関係が深まるなど目標が達成されている。その他の課題についても、災害発生時の近隣住民との協力体制作りを取りあげ、運営推進会議の住民代表とも協力し、避難訓練への参加を呼びかけるなど、目標達成に向けた取り組みが行われている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員でつくり、毎朝唱和することで共有している。利用者主体などの意識が薄れて方向性が見えなくなったときには理念に立ち返る様話をする等実践につなげている。	ケアの統一性を図るため、毎朝、理念の唱和が行われている。その際、管理者より、利用者の状況に合った具体的な支援のポイントを一言添えられており、職員も納得したうえで支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度「ひなげし通信」を町会の回覧板に入れていただき広く知って頂く努力をしてきた。神社の祭礼は毎年全員で参加し、秋の文化祭に声をかけていただいた。町会名簿に広告を出す際町会参加を再度お願いした。	地域のお祭りの写真を掲載した事業所発行の「ひなげし通信」を町内の回覧板に入れてもらうことで、地域の住民からも、身近な存在として受け入れて貰えるようになったり、地域ボランティアとのつきあいも始められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や施設見学は満床時でも対応し、解る範囲の説明をしている。近隣に住む研修中の生徒の施設見学も受け入れ、認知症の説明に努めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、近隣の方には施設の状況を知っていただいたり、消防訓練に参加していただき意見を活かした。また外部評価の結果から昼食会を企画し意見を生かした。	定期的に年6回開催され、近隣のグループホームの管理者も参加して意見交換を行うほか、避難訓練や食事の試食会が、併せて実施されている。事業所の状況をオープンにし、忌憚のない意見を取り入れるよう工夫が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導を受け、業務の改善に努めた。生保者に関して、生活福祉課の担当と密に連絡を取った。	市担当者とは日常的に利用者に関する相談を行い、連携が図られている。また、運営推進会議には、地域包括支援センターに参加いただいたり、社会福祉協議会が行う研修会に職員が出席するなど、相互交流が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は続けて行っている。身体拘束の無いケアを実践しているが、すべての職員が正しく理解出来ているとは云えない。	身体拘束「ゼロ推進」については、職員の教育・指導に力が注がれ、拘束に頼らないケアが実践されている。特に新人職員には、具体的に「何故、こういうことがダメなのか」まで、細かく指導することで、周知が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報連相を密にする事により、虐待まで行かない小さな芽も見逃さないようにしている。スピーチブロックにも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解、活用はできていない。必要と思う方もいるので学ぶ機会を持ち支援できる様に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は本部マネージャーと管理者で行い、納得のいく様十分な説明を行っている。改定時や変更があるときは書面で連絡し、必要があれば説明を加えて、同意書ももらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、また面会時や電話での問い合わせ等で意見や要望をくみ取り、運営に反映するように努めている。	利用者とは毎日の生活の中で、気持ちに寄り添い話しを聴き、家族については、面会時や家族会の時に意見交換を図るよう努められている。家族の提案に基づいて、職員の写真入り紹介パネルができるなど、運営にも活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があればカンファレンスノートに記入し話合っている。管理者、フロア長は直接意見、提案があれば聞くようにしている。。	「個人の判断で統一したルールを変更することはない」との指導で、職員間では意見・提案を出し合い、話し合って結論を出す習慣が作られ、採用案は、事業所全体に反映され、業務の改善やケアの質の向上につながられている。	職員のケア技術や考え方の成熟度、方向性を把握するため、管理者と1対1で話し合う機会を設け、個別の意見を傾聴し、新たな目標を立てるなど、職員のスキルアップを図る取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	12月より賞与制度が導入される。その為個々の努力や実績などを評価している。研修に日勤扱いで参加でき、向上心を持つようになっている。介護福祉士試験対策講座を用意し、合格率上昇の努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2名が働きながらヘルパー2級の資格を取った。今年度は全職員が何かしらの研修に参加できるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東川口・戸塚地区のグループホームで連絡会を組織し3か月に1度会合を持っている。運営推進会議に相互参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人中心のケアをし、安心してもらえるような関係づくりをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけでなく家族の要望にも耳を傾けている。 施設側の説明も誠実に納得いくまでし、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をスタッフで共有しその時必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心を寄り添えるよう努めて暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に考え、話し合い、本人を支えられるよう努めている。入浴、外出、受診、入退院対応、面会、電話等で家族が職員と共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会や一緒の外出には支援に努めている。体調に不安のある息子様との月に1度の面会を支援している。	お正月に一時帰宅されたとき、昔のように初もうでに出かけていただけるよう、家族に介護方法をアドバイスするなどの支援が行われている。また職員も馴染みの人との関係継続には便宜を図るなど、協力体制作りに取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	そばに居るだけで安心する関係や話が合うなどの利用者同士の関係を把握し、孤立せず一緒に笑い楽しみ生活できる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方の面会に行き、様子を見た。施設の方に情報を提供した。ご家族から相談などあったら支援したいと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と良く話し、家族より情報を得たりしながら本人の意向の把握に努めている。困難な場合も様子の観察により本人本位になるように努めている。	利用者の意志や暮らし方を尊重し、思いをかなえられるよう支援が行われている。入居時、会話が成り立たなかった利用者には、服薬を調整したり、好きなことを聴きだすなどの工夫を重ね、会話ができるようになった例も見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や本人、家族からの話を良く聴いて経過の把握に努めている。昔の話は良く覚えてることがあるので、話の中からも引きだしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動に注意を払い少しでも日頃と違う行動や言動がある場合は注意し記録している。また記録や申し送りで共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで話し合い決定し、決定事項に従ってケアしている。家族の意向を会話の中からも取り入れるようにしている。	3か月ごとに介護計画が見直されている。申し送りノートに職員が気付いたことを記録し、利用者の変化に気づく力・改善策を提案できる力が養成され、介護計画にも反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録を読み書きして情報を共有しながら実践している。それをもとに介護計画の見直しにもつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望やその時に必要なニーズにはできる限り可能になるように準備、支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを招き利用者が楽しめるよう支援している。夏祭り、初詣、外食会等も企画し楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回内科往診医が来ている。急病時は内科往診医に指示を仰いでいる。必要なときには家族に受診をお願いしているがその際必要書類をそろえ、病状の詳しい説明をしている。	かかりつけ医など、通院の際は、薬の情報や体温表を持参し、普段の様子などが伝えられるよう配慮がなされている。入院されるときには、詳細なサマリーを作成し情報提供も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護時には日常の様子や特変を伝え適切な指示を受けている。内科往診医との連携も取れている。夜間急病時等には電話で看護師に指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリー、薬情表を提出している。入院時は時々様子を見に行き病院関係者の情報を得る様にしている。退院時には家族、病院と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢化、重度化が進み、事業所でできる事を常に模索している。本人、家族から延命治療についての同意書をいただいている。本人、家族の意向も踏まえできるだけ施設で過ごせる様、内科往診医、訪問看護、薬局等と連携し話し合っている。	状態が変化するごとに、家族や主治医と相談し、連携を図りながら対応方法が検討されている。重度化された利用者には、食事の工夫をするなどし、家族の負担軽減にも配慮され、事業所としてできるだけの支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人以外は普通救命講習を受けている。応急手当や初期対応はマニュアルの習熟に努めているが全員が身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3度の予定で避難訓練を行っている。前回は避難訓練実施と協力のお願をチラシにして近隣に配ったが参加はなかった。	運営推進会議の住民代表や家族の参加を得て、避難訓練が実践されている。地震や火事を想定し、その都度課題を見つけ、消防署の指導も受けながら、改善策の検討も行われている。	災害発生時の地域住民の協力は不可欠であり、今後も、家族や近隣住民に訓練への参加を呼びかけ、現状の理解と、協力体制の構築などに向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの人生を把握し悪いことには触れず、傷つけない様な言葉かけに努めている。意志の疎通が困難な場合も否定せず笑顔で接している。	入浴や排泄時の介助や声かけ、普段の言葉使いまで、利用者の尊厳を守ることを基本とした教育がなされている。職員同士の話し合いの際にも、利用者の個人情報に不用意に漏れないよう配慮するなど、プライバシーの確保にも努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や笑顔で接することにより話しやすい雰囲気づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた生活のリズムに沿って支援するよう努力している。職員の都合を優先することの無いよう、申し送りやカンファ時に話題にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容、髭剃りなどできる利用者には自分でしていただき、できない方、できない所は支援している。季節感のある服装で汚れの無いように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自に合わせた食事形態や好みに気を付け、利用者と職員が同じ食事を同じテーブルで会話をしながら楽しく食べている。配膳、下膳、洗物等を一緒にしている。家族にメニュー表を配布し個別に試食している。	利用者の食習慣に配慮した支援が行われ、利用者になかった食事形態を検討し、提供されている。家族の理解を深めるために、試食会を実施したり、メニュー表を配布するなどの工夫も実践されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の好きな方に声掛けによりおかずにも意識を向けている。水分量が少ない方には声掛けや介助で支援している。食事量、水分量は一人一人の状態により無理の無いような支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後必ず行っている。義歯は着脱できる方は自分で、意思疎通の困難な方にもジェスチャーなどで促し自分でできる様な支援をするなどそれぞれの力にあわせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調不良時にリハパンになった方を体調が落ち着いてから布のパンツに変更した。おむつを使用している方が便意を訴えた時やそろそろ出ると判断した時は2人体制でトイレに座って頂いている。	利用者のできる力を尊重し、身体状況にも配慮して、介助方法や自立支援の声かけなどが検討され、支援が行われている。利用者の持つ可能性やトイレに行きたいと思う気持ちを引き出す努力がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の強い方はヨーグルトや青汁を家族の協力のもと摂取している。腹部マッサージや温タオルで促している。他は運動、入浴、生活のリズムを整えるなどで支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順は大体の決まりはあるが、便失禁や入りたいという希望があるときはできる限り対応している。またご家族と協力して入浴するなど個々に沿った支援をしている。	無理強いすることなく、気持ち良く入浴してもらえるようにアプローチを工夫したり、タイミング良く、声をかけるなどの努力がなされている。入浴に対する不安を取り除くために、家族に協力してもらうなど、入浴が楽しめるよう支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方、車椅子の方、傾眠している方など個々の状態にあわせて臥床時間を日中午前、午後などに設けている。就寝時間は一人ひとりに応じて変えている。テレビが見たい、話がしたいときはその都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった時などは特に身体の症状の変化を見逃さないようにしているが、全員が薬の目的や副作用など詳しいことまで理解できているとは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる手伝いをやって頂いている。レクや談笑を一緒に楽しみ、気分転換できるよう支援している。居室でビールを飲む方、おやつに好物を食べる等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き買い物と一緒に行って頂く事もある。初詣、花見、夏祭り、地域文化祭、外食会等身支度し外出の支援をしている。	外出支援には積極的に取り組まれ、時間を見つけて、散歩やコンビニへの買い物など、日常的に外出機会が創られている。「出かけられない理由」ではなく、どうしたら外に出られるかを考え、家族にも相談しながら、様々な支援に努められている。	外出できる楽しみや喜びを家族とも共有できるように、散歩や外気浴など日常の外出の様子を、写真にして家族に伝えることで、家族の理解や協力にもつなげていく取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を持っている方もいるが、使うお金は施設で管理している。初詣や外出行事の際お金を渡して自分で払う事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に使用している。充電や故障の対応は職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は明るく落ち着いた雰囲気心を心がけている。花を飾る事もある。利用者と一緒に作る壁飾りで季節感を出している。テレビが好きな方は自由に観られるように、音楽が好きな方にはCDを自由に聴けるように支援している。	共用空間には心地よい音楽が流され、利用者が気軽に集まって来られる居心地の良さが感じられ、職員も含めて仲良く談笑する光景も見られる。畳敷きの場では、利用者が洗濯物を畳んだり、腰かけて陽に当たるなど、思い思いの生活を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と席を側にしてトラブルの無いよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れたタンスを置いている方もいる。また家族との写真や誕生日カードなどを本人の好みに合わせて配置している。	居室には畳が敷かれ、温かみのある癒しの空間となっている。利用者が勤めていた時の写真を飾ったり、仏壇の水を変えることを日課にされるなど習慣や価値観にも配慮された支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には名前を書き確認する時に役立てている。薬剤などの置き場を決めて、利用者の目に付かないようし安全を確保している。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名:グループホームひなげし

作成日:平成 25年 3月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災における近隣の協力体制は努力はしているがまだ築けてはいない。 地震時の対応マニュアルが徹底していない。	防災訓練に近隣の皆様に参加していただけるように呼びかけを続ける。 地震時の対応について再度確認する。	近隣の協力体制を築くために、運営推進会議に町会の代表者に来ていただき、施設を知って頂く。防災訓練時には近隣にピラなどをお願いを続ける。 防災マニュアルの見直し、徹底を図る。	6ヶ月
2	49	散歩や地域行事の参加等を行っているが、ご家族には様子が伝わっていない。 個別の外出の支援やご家族の参加は一部となっている。	日課として散歩、外気浴を充実し、散歩の様子をご家族にお知らせする。 個別の外出にも対応できるようにする。	散歩の際写真を撮り、ひなげしだよりでその様子をお知らせする。 買い物等個別に外出する機会を多くする。 本人、ご家族の要望をくみ取りご家族との外出に協力する。	6ヶ月
3	11	時間を設けた管理者と職員の個別面談は行っていない。 職員間の意見交換が少ないと感じている。	意見や提案を発言し易くして、やりがいを見い出せる職場にする。 フロア内の意見交換を活発にする。	管理者は職員と個別面談を実施し、意見を傾聴するとともに各職員に適したスキルアップを提案していく。 毎月行っているフロアカンファレンスを全員参加で行う月を年に2~3回設ける。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。